



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



インプラント界の巨星墜つ

歯学部長 宮崎 隆

昨年12月20日に、現代のインプラント歯科治療の発展に多大な貢献をしたブローネマルク博士が85歳で逝去しました。同博士は1950年代の後半に、動物実験でチタン製の実験器具が脛骨に強固に接合していることを見出しました。歯科医療への応用を検討し、基礎研究を続け、1965年にチタン製スクリューインプラントの臨床応用を開始しました。当時すでにインプラントロジストと称される臨床医によってインプラントは使用されていましたが、歯科界全体には受け入れられていませんでした。1982年にカナダのトロント大学で開催されたシンポジウムで、ブローネマルク博士の提唱したオッセオインテグレーションの概念とチタン製インプラントの臨床実績が高く評価され、その後世界標準として普及して現在に至っています。



私が初めてインプラントに触れたのは、大学に入学した1972年のクラブの新患コンパでした。サンゴを利用した歯科インプラントの開発をしていたOBの先生から、これからはオンプラントデンチャー(いわゆる有床義歯)からインプラントデンチャーの時代になると熱く吹き込まれました。しかし、その後の学生講義ではインプラントに関する話題はありませんでした。大学院に進学後の1978年ごろに、インプラント臨床を専門にしている開業医のもとで、骨膜下インプラントやブレードインプラントを実地に学ぶ機会があり、インプラントの魅力に取り付けられました。1984年に昭和大学に赴任してからは、ライフワークとしてインプラントの研究を開始しました。ブローネマルク博士の愛弟子である小宮山彌太郎先生が1983年にスウェーデンから帰国して、東京歯科大学でブローネマルクインプラントの診療を始めました。本学でも尾関先生(現在インプラント歯科学講座教授)が1988年からブローネマルクインプラントの臨床を開始しました。

この30年間にインプラントは日常歯科治療の選択肢の一つとして定着し、多くのインプラントシステムが登場して、治療術式も様変わりしました。日本口腔インプラント学会の会員数は急激に増え、1万数千人の規模になりました。

その一方で患者とのトラブルや、医療事故も増えてきました。2012年に国民生活センターから歯科インプラント治療に係る問題が公表され、社会的な問題になりました。歯科界をあげて対応に迫られ、本学においてもインプラント歯科学講座を設置して教育の充実を図っています。

一方で、超高齢社会に突入した我が国では医療のありかたが変わってきました。学会でも高齢者のインプラント治療に関するテーマが取り上げられるようになりました。介護が必要になったときに口腔内のインプラントがバイオフィルム感染症の元になるのではないかと、また、仮にインプラントが骨内に維持されていても、上部構造体の調整や修理を介護の状態で行うかとの問題もあります。このように、ブローネマルク博士の逝去を機会に、改めて歯科インプラント臨床の将来を考えていきたいと思えます。

選抜 I 期入試が実施されました

入試常任委員 美島 健二

平成27年度歯学部選抜 I 期・センター I 期・編入学 II 期入試が1月29日(木)に、薬学部、保健医療学部と合同で東京試験場 五反田TOCビル、大阪試験場 新大阪丸ビル別館そして福岡試験場 南近大ビルでそれぞれ実施されました。

今回の志願者は、3試験場合計で選抜 I 期552名(前年度490名の62名増)、センター I 期215名(前年度187名の28名増)、と前年度に比べ増加がみられました。

当日は積雪の心配がありましたが、交通機関等の乱れもなく定刻に試験が開始され、無事終了し、2月2日(月)に選抜 I 期、2月5日(木)にセンター I 期の合格者を発表いたしました。優秀な多くの新入生の入学が期待されます。ご協力いただきました職員の皆さまに心からお礼を申し上げます。



D3地域連携歯科医療実習Ⅱ発表会と意見交換会を開催しました

歯学教育学部門 片岡 竜太

地域歯科医療の現場を早期から体験し、将来の目標を見つけ、日々研鑽することが歯科医療人の育成に重要です。山梨県歯科医師会と協定を締結し、富士吉田キャンパスでの初年次教育の中で、地域歯科医療の現場を体験する実習を「地域連携歯科医療実習Ⅰ」として6年前から必修化しています。今年度から3年生を対象に必修化した本実習はこれに引き続く「地域連携歯科医療実習Ⅱ」です。昨年9月11日、18日に100名近い歯科医師会の指導歯科医師の先生方を対象に説明会を行いました。その後学生代表と実習先診療所のマッチングを行い、Ⅰ期(11/4, 11/11), Ⅱ期(11/18, 11/25), Ⅲ期(12/2, 12/9)に各期約35名が実習をさせていただきました。

12月18日(木)に開催された実習報告会では東京都歯科医師会長 高橋哲夫先生に「東京都歯科医師会の概要と歯科医師会の必要性」というテーマで講義をしていただきました。社会から尊敬されるために「人の心を包み込む大きな心と人間性」を身につけて欲しいという暖かいお話でした。さらに地域医療の実践は行政から歯科医師会会員に依頼されるために、歯科医師会が地域医療においていかに重要かを話していただきました。学生発表会ではまず、7~8人毎にグループに分かれて、今回の実習で学んだ事をお互いに発表して共有をしました。学生は歯科診療所による違いを知り、自らが学んだ歯科診療所を客観視しました。さらに全体会で十数名の学生が実習で学んだ事を発表しました。また実習を振り返り、今後にどのように活かすかをポートフォリオに記載しました。実習発表会や学生のポートフォリオの記述を読むと、実社会の歯科診療所における実習で、社会人としてのマナー、服装、身だしなみ、言葉遣いの大切さに気づいた学生が多くいました。また歯科診療所の先生方が、地域の患者さんにいかに尊敬され、慕われ、頼りにされているか知り、歯科医師がやりがいのある仕事であることを実感し、あわせて重要な責任があると感じた学生もいました。

指導をしていただいた先生方35名にも発表会に参加していただき、学生へのフィードバックをしていただきましたが、社会で活躍する上で、社会人としてのマナーと人間性がいかに大切かを多くの先生が強調していました。歯科医師としての基盤を形成する上で、今回の実習が重要な役割を果たしていることがわかりました。



実習報告会の後で30名の歯科医師会の先生方に参加していただき、大学と歯科医師会の教育に関する意見交換会を開催しました。実習の意義は多くの先生方が感じられており、他の歯科医師会会員にも本実習の魅力や診療所に対するポジティブな効果を分かりやすく説明した方が良く、事前に実習する学生の出身地やクラブ活動などの情報があれば学生の事を把握しやすくなりさらに充実した実習が行えるなど建設的な意見をいただきました。今後実習の改善に活かしていきたいと思えます。歯科医師会の先生方と大学の教員が同じ気持ちで、学生と患者さんのために教育ができる時代が来ることを予感させる会となりました。

最後になりましたが、今回の実習の遂行には、教育連携協定を締結している東京城南地区の品川、荏原、目黒区、大森、蒲田の各歯科医師会の方々ならびに、昭和大学歯学部同窓会の皆様大変にお世話になりました。歯科医療の発展のために、学生教育へのご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

選抜Ⅱ期入試が実施されました

入試常任委員 井上 富雄

平成27年度選抜Ⅱ期・センターⅡ期入試が2月21日(土)に旗の台校舎において歯学部・薬学部・保健医療学部の3学部合同で実施されました。当日は晴天に恵まれ春の訪れを感じさせる陽気となり、交通等の乱れもありませんでした。歯学部は16号館を試験会場として使用し、平穩に試験が実施されました。3学部合同入試になって5年目となり、4号館や5号館で実施している他学部の入試との連携も円滑に進み、各入試業務は滞りなく遂行されました。

選抜Ⅱ期の志願者は昨年より18名増えて214名となりましたが、センターⅡ期は若干減少して21名の志願者となりました。2月24日に合格者が発表されました。以上をもちまして平成27年度入試が無事終了しました。ご協力いただいた職員の皆様、誠にありがとうございました。



学術会議と歯学協共催のシンポジウム が昭和大学で開催されました

歯学部長 宮崎 隆

去る2月7日(土)に本学16号館で、日本学術会議歯学委員会と日本歯学系学会協議会の共催で、「これからの歯学・歯科医療における人材育成」をテーマに公開シンポジウムが開催されました。日本学術会議は科学技術に関する情報発信や情報収集を行ない、科学者の意見を政策に反映させることを目的とした国の特別組織です。この中で、歯学という学問領域が医学、薬学とともに第二部に所属して活動しています。一方、歯学系学会協議会は我が国の歯学系学会(2015年2月現在77学会が加盟)の連合体であり、学術会議との連携のもとに、歯学の諸問題を討議して、広く社会に情報発信する活動を続けています。

超高齢社会に突入し、歯科医療は大きな変革期を迎えています。それを支える人材育成は、明日の国民の健康のために最重要の課題です。今回のシンポジウムでは、学部教育、臨床研修、大学院教育、専門医教育と続く、歯学を志した若者のキャリア形成について、大学、歯科医師会、文部科学省、厚生労働省、そして専門学会の立場から講演をしていただきました。特に歯科医療が従来の診療所完結型から多職種との地域連携型への展開が求められている中で、社会に必要な人材をいかに育成していくかが討論の焦点になりました。

本シンポジウムの内容についてはプロシーディングを発行する予定ですので、後日目を通していただきたいと思えます。本学の進めている教育改革の方向性は間違っていないことを改めて確信し、今後も学部を超えたチーム医療教育と、地域歯科医師会との協働による教育を進めていく所存です。



OSCEが実施されました

OSCE委員会 委員長 菅沼 岳史

平成27年度共用試験OSCEが2月16日(日)に歯科病院において実施されました。運営、評価に関わったスタッフは、教職員160名、SP15名、機構モニター2名、外部評価者6名の合計183名で、99名の学生が受験しました。

昨年度とは異なり天候にも恵まれ、受験生の遅刻や大きなトラブルもなく無事に終了することができました。今回は、東京SP研究会にSPの派遣を依頼し、課題間、系列間の音漏れ対策として課題実施、移動時にBGMを流すなどの新たな試みを行いました。概ね良好な結果が得られたかと思えます。一方、反省会において、学生誘導時にスタッフと導線が重なること、ステーション間で課題を読むまでの移動距離が異なることおよび課題間の移動の際のグローブ着用による時間的余裕がないことなどの問題点が指摘されました。いずれの問題点も課題が明らかになった時点で、学生やスタッフの負担を軽減し、歯科病院という限られた環境の中で公平かつ効率よく実施できるように次年度の委員会で検討したいと思えます。週末の貴重な時間を多くの教職員の方々にご協力を頂きありがとうございました。

CBTが実施されました

CBT 副実施責任者 荒木 和之

1月27日(火)に、平成26年度共用試験CBTが実施されました。インフルエンザの流行がみられている時期であり心配していましたが、受験を希望していた4年生99名は欠席もなく全員無事受験しました。当日は旗の台校舎4号館600号教室を試験会場とし、学生は午前8時40分に集合し、全320問の問題に取り組みました。試験は6ブロックに分かれており、各ブロック60分で解答をおこない、最後にアンケートをして解散となりました。学生は終始緊張の面持ちで試験に臨んでいましたが、CBT事前説明会やCBT体験テストの経験もあって、大きな混乱もなく無事試験を終了することが出来ました。運営は、北川先生(実施責任者)、中村先生(副実施責任者)、坂井先生(サイトマネージャー)、学務の係員と私が担当しました。試験監督は午前・午後各3名のべ6名の体制でおこない、基礎系の先生方をお願い致しました。

当日は共用試験実施評価機構から神奈川歯科大学の山本教授、愛知学院大学の金森教授がモニター委員として派遣され、実施状況を監視されました。試験終了後の反省会では、受験態度や実施状況など、全体的に良好でしたとのコメントをいただきました。CBT実施にあたりご協力いただいた先生方・事務方の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。



歯科医師国家試験が実施されました D6 チューター会議 美島 健二

第108回歯科医師国家試験が全国8会場で1月31日、2月1日の2日間実施されました。昨年同様、試験会場は東京工科大学蒲田キャンパスで、本学をはじめ9大学が受験しておりました。

各大学とも関係者が応援に駆け付けており、会場前は激励ムード一色となっておりました。当日、寒さは厳しいものの天候にはめぐまれ、本学からは宮崎学部長をはじめ多数の教員や卒業生が応援に駆けつけ、昭和大学の旗印のもと受験生への激励がおこなわれました。今回は、高橋先生の「至誠一貫」のロゴ入りスクラブがひときわ輝きを放っており、受験生全員の励みになったでしょう。

本年度、本学は卒業判定を全員クリアし、国家試験全員合格を目標に一致団結して望んでいます。必ずや期待通りの結果が得られるものと確信しております。なお、合格発表は、3月18日(水)午後2時から行われます。



歯学部合格者ガイダンスが 実施されました

入試常任委員 山本 松男

2月15日(日)に、平成27年度入学予定者に対して、旗の台4号館で歯学部合格者ガイダンスを実施しました。

入学前の期間を有意義に過ごしてもらうように個人面談をおこなうのが目的です。このガイダンスには昨年11月に推薦入試・編入試験で合格している予定者31名と、1月末に実施した選抜I期・センターI期入試で合格している者のうち19名が参加しました。遠方からの参加が難しいなどの理由で全員参加には至っていませんが、参加をしてくれた合格者の皆さんは合格による一安心や新しい環境への期待と不安の混じった様子で、それでもエネルギー溢れる元気な姿を見せてくれました。

はじめに、歯学部生活全般について宮崎学部長より挨拶をいただきました。選抜・センターI期合格者に対して、井上富雄先生から入学前の準備教育について、また富士吉田教育部の田中一正先生から1年次カリキュラムについてお話しをいただきました。

富士吉田での生活ぶりについて1つ上の学年にあたる歯学部1年生田中圭介君に簡単に話をしてもらった後で、中村雅典先生の模擬講義「口の歴史」を行い、歯学部入学の実感と心構えを醸成する工夫をしました。編入入学予定者には、同じ立場で入学した2年生の朽方晋介君から話をしてもらいました。富士吉田では大変楽しいキャンパスライフが待っていますが、高校までの勉強と異なり、専門科目への基礎を固めるために質・量ともにレベルが高くなります。1年次の前半でつまずくと2年次の基礎科目で苦勞をする学生が多いようです。

推薦・編入の方には合格発表から入学前までの期間に、理科3科目(物理、化学、生物)のDVD講義を自習してもらっていますが、今年はその範囲に対して小テストを実施しました。概ね基礎固めが進んでいるようでしたが、弱点もよく見えたようで、入学までの残りの期間を明確な目的を持って過ごしていただくような指標を示せたのではないかと考えています。

行事予定

広報委員長 中村 雅典

- 3月 2日(月): D2 オリエンテーション(～3日まで)
- 3月 4日(水): D2 授業開始
- 3月 5日(木): D4 OSCE 追再試験
- 3月12日(木): D5 iOSCA
- 3月17日(火): 卒業式
- 3月18日(水): 歯科医師国家試験合格発表
- 3月19日(木): D5 iOSCA 追再試験
- 3月20日(金): 大学院歯学研究科修了式
- 3月23日(月): D5 オリエンテーション・予備実習
- 3月30日(月): D5 白衣授与式
- 4月 1日(水): D3・4・6 オリエンテーション
D2・3・5・6 健康診断
- 4月 2日(木): D4 健康診断

編集後記

口腔病理学部門 田中 準一

平成27年2月は月末となってようやく朝夕はともかく昼間は春の気配を感じられるようになりました。

2月は入学試験、国家試験をはじめ多くの試験が実施されました。業務に携わっていただいた先生方は体調を崩さないようお気を付け下さい。

末筆となりましたが、ご多忙中にも関わらず原稿を御執筆してくださいました先生方に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。